

平成29年第3回砂川市議会定例会
決算審査特別委員会

平成29年10月3日（火曜日）第2号

開会宣告

開議宣告

議案第11号 平成28年度砂川市一般会計決算の認定を求めることについて

議案第12号 平成28年度砂川市国民健康保険特別会計決算の認定を求めることについて

議案第13号 平成28年度砂川市下水道事業特別会計決算の認定を求めることについて

議案第14号 平成28年度砂川市介護保険特別会計決算の認定を求めることについて

議案第15号 平成28年度砂川市後期高齢者医療特別会計決算の認定を求めることについて

議案第16号 平成28年度砂川市病院事業会計利益の処分及び決算の認定を求めることについて

散会宣告

○出席委員（11名）

委員長 北谷文夫君
委員 増井浩一君
増山裕司君
佐々木政幸君
水島美喜子君
小黒弘君

副委員長 武田真君
委員 多比良和伸君
中道博武君
武田圭介君
辻勲君

（議長 飯澤明彦）

○欠席委員（0名）

○ 決算審査特別委員会出席者 ○

1. 本委員会に説明のため出席を求めた者

砂川市長 善岡雅文
砂川市監査委員 栗井久司
砂川市監査委員 沢田広志

2. 砂川市長の委任を受け説明のため出席する者

副市長	角丸誠一
総務部長兼会計管理	熊崎一弘
総務部審議監	近藤恭史
総務課長	東藤正人
総務課副審議監	山形譲二
市長公室課長	安原雄二
政策調整課長	井上守一
税務課長	為国修一
庁舎建設推進課長	畠山秀樹
庁舎建設推進課副審議監	徳永敏宏
会計課長	大西俊光
市民部長	中村一久
市民生活課長	佐藤哲朗
社会福祉課長兼子ども通園センター所長	斉藤隆史
介護福祉課長兼ふれあいセンター所長	吉川美幸
ふれあいセンター副審議監	松原明美
経済部長	福土勇治
商工労働観光課長	山下克己
商工労働観光課副審議監	岩淵真里子
農政課長	小林哲也
建設部長	湯浅克己
建設部技監兼土木課長	荒木政宏
土木課副審議監	金泉敏博
建築住宅課長	金丸秀樹
建築住宅課副審議監	洪谷正人
病院事務局長	氏家実
病院事務局審議監兼医事課長	朝日紀博
病院事務局審議監兼地域医療連携課長	山田基
管理課長	山川和弘
管理課技術長	大内文雄

経営企画課長	渋谷和彦
附属看護専門学校副審議監	細川仁
研修管理室副審議監	森田康晴

3. 砂川市教育委員会委員長の委任を受け説明のため出席する者

教 育 長	高橋豊
教 育 次 長	河原希之
学 務 課 長	安田貢
社 会 教 育 課 長	
兼 公 民 館 長	今崎大三
兼 函 書 館 長	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	佐々木純人
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	橋加奈子

4. 砂川市監査委員の委任を受け説明のため出席する者

監 査 事 務 局 長	堀田一茂
-------------	------

5. 砂川市選挙管理委員会委員長の委任を受け説明のため出席する者

選挙管理委員会事務局長	熊崎一弘
選挙管理委員会事務局次長	東正人

6. 砂川市農業委員会会長の委任を受け説明のため出席する者

農 業 委 員 会 事 務 局 長	福士勇治
農 業 委 員 会 事 務 局 次 長	小林哲也

7. 本議会の事務に従事する者

事 務 局 長	峯田和興
事 務 局 次 長	川端幸人
事 務 局 主 幹	山崎敏彦
事 務 局 係 長	渡部秀樹

開会 午前 9時55分

◎開会宣告

○委員長 北谷文夫君 おはようございます。ただいまから決算審査特別委員会を開きます。

◎開議宣告

○委員長 北谷文夫君 直ちに議事に入ります。

前日に引き続いて議案第11号の審査に入ります。

262ページ、第10款教育費、第6項給食センター費について武田真委員の質疑を許します。

○武田 真委員 おはようございます。それでは、給食センター費の備品購入費について伺っていきたいと思うのですが、予算のときに消毒用保管器を導入するというようなお話だったと思うのですが、ほかにも器械が入ったと思うのですが、これによって業務がどのように改善されたのかをまずお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 橘 加奈子君 消毒保管器についてのお尋ねですけれども、平成10年に開所以来、約20年弱使ってまいりましたが、温度が上がらないというようなことがございまして、支障を来しておりましたので、新しく入れかえまして、そういうトラブルも入れかえ後一切ございませんので、適正に消毒保管ができています。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 後ろのほうの物品の財産の台帳ですか、財産に関する調書を見ると、ほかにも器械設備が大分減ったように思うのですが、これは消毒保管器を入れたことによって必要なくなった設備があったのかと理解していいのかどうか、お伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 橘 加奈子君 消毒保管庫を入れかえたことによって必要なくなったものではございませんで、実は議会のほうにもご報告いたしましたが、パンを砂川の業者さんから美唄の業者さんにかえたことによって、パン箱の保管を給食センター内で行わなければならなくなりまして、その場所を確保するために使わなくなった機器について廃棄をしたものです。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、不用な物品がかなり出たということなのですから、その処分の方法はどのようにされたのかお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 橘 加奈子君 機器の入れかえのときに専門業者のほうに引き

取っていただきました。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 それは、有償とかではなくて、無償でその処分をお願いしたということなのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 橘 加奈子君 廃棄するものに関しては、給排水ですとか、電気工事を伴いますので、処分料という形で予算を使って処分をしていただいております。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 電気設備とかはわかるのですけれども、使えそうな給食関係の機器といえますか、例えばジュラルミンのような、高価な材料を使ったようなものがいろいろあると思うのですけれども、そういうのも含めてまとめて無償で引き取ってもらったといえますか、処分されたということなのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 橘 加奈子君 大型の機器については産業廃棄物という扱いになるものですから、そちらの専門業者のほうにお願いしております。小さいものに関しては、廃品回収業者のほうにお願いして引き取ってもらう場合もございます。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、今回の小さなものについては廃品回収業者さんに、それは無償なのか、それとも有償なのか、どういう形で引き取られたのかだけ最後に伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 橘 加奈子君 ステンレスですとか、アルミですとか、値のつくものに関しては有償で引き取りをお願いしております。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に進みます。266ページ、第11款公債費、第1項公債費、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

268ページ、第12款諸支出金、第1項過年度過誤納還付金、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に進みます。270ページ、第2項特別会計繰出金、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に進みます。272ページ、第3項開発公社費、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に行きます。274ページ、第13款職員費、第1項職員費、ございますか。

武田真委員。

○武田 真委員 それでは、職員費について伺ってまいりたいと思いますが、まず時間外手当なのですけれども、昨年より若干ふえたということなのですけれども、それについて一体どのような部署が残業が多いのか、あるいは例えば一番多く残業された方の残業時間がどうなっているのかをまずお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 まず、今職員手当のうちの時間外手当ということでございますけれども、この金額につきましては2,062万790円となっておりまして、昨年度と比較しまして131万3,231円多くなっております。この多くなった要因につきましては、平成28年度におきましては8月20日に台風9号、11号が上陸したことに伴い、災害予防とか災害復旧対策のために職員が時間外したことによる増でございます。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 一番多く残業があった部署と、特定の個人はあれですけれども、例えば一番多く残業された方が大体何時間ぐらいされたかというような統計があればお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 わかりますか。

総務課長。

○総務課長 東 正人君 今1人当たりの資料はございますけれども、ここで多いところといいますと、まず財政係、あとは市民税係、あとは社会福祉係、児童家庭係になってございます。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 今働き方改革とか、いろいろ言われているのですけれども、例えば過労死ラインとか言われているような時間外数とかありますけれども、そういったラインを超えているような方というのは実際いらっしゃるのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 昨年来からそのお話もございまして、庁内で協議したところでもございますけれども、ただやっぱり今一時的に例えば定額給付金等、国の法改正によってやむなく時間外をしなければならないという状況でもございます。ただ、これは時期的です。一時的に1カ月単位では超えることもあるというのは承知してございますが、ただこれによってやはり職員の体調管理だけは万全にするようにはしてございます。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、一時的な要因で多いというのはありますけれども、例えば恒常的に過労死ラインを超えるような残業をされているような方はいらっしゃらないということで理解してよろしいのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 一時的ということで、経常的に何年もそれを超えているというのは把握をしてはございません。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 続きまして、住居手当について伺っていきたいと思うのですが、いわゆる持ち家手当の支給人数と支給額についてお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 こちらもまた職員手当のうちの住居手当になりますけれども、総額は2,624万1,227円になってございます。このうち持ち家につきましては月額8,000円の支給となっております。平成28年は年度途中で職員4人が家を新築してございますので、年度末の対象者は63人で、年間の支給額が594万4,000円となっております。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に進みます。278ページ、第14款予備費、第1項予備費。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に進みます。280ページ、第15款災害復旧費、第1項農林業施設災害復旧費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に行きます。280ページ、第2項公共土木施設災害復旧費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に進みます。284ページ、第3項その他公共施設・公用施設災害復旧費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、歳入に入ります。535ページからの財産に関する調書を含め質疑ございませんか。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 歳入について質疑をしたいと思うのですが、まず総括質疑のときに市長のほうから答弁があった全道2位という話の件なのですが、これは具体的に言うと多分市税の収入率の関係かなと思うのですが、改めてその点をお伺いしたいと思うのですが。

○委員長 北谷文夫君 税務課長。

○税務課長 為国修一君 総括質疑の中で市長が答弁していた部分なのですが、全道2位というのは市税の現年分の収入率について2位になったということです。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 市税の現年分ということですよ。これまでたしか3位ぐらいまでは行ったのに、そこから先がなかなか難しいという話だったのですけれども、今回2位になったということですが、その上というのは名寄ということなのですか。

○委員長 北谷文夫君 税務課長。

○税務課長 為国修一君 そうでございます。名寄市さんが1位ということですよ。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 これを見ていると、市税の場合99.58、これでいいのですか。法人税等を入れるともうちょっと違う数字になるのかな。かなり頑張ってやっているのだと思うのですけれども、市税に関して道内2位になったということではあるのですけれども、これが一体どのぐらいのものかというのがちょっとわからないので、全道平均って大体収入率ってどんなものなのですか。

○委員長 北谷文夫君 税務課長。

○税務課長 為国修一君 都市における税の対象となっているものが入湯税ですとか、そういう目的税、個々ばらばらありますけれども、全道市でいきますと現年分では平均99%ということになっております。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 全道各市で99%の上でいろいろと頑張っているという状態なのですね。そこはそれでわかったのですけれども、平成28年度というのは歳入の場合に予算額よりも5,000万ほどふえている決算の状況になっているのですけれども、この辺の要因というのはどういう点だったのかお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 税務課長。

○税務課長 為国修一君 3月補正が終わった後の予算額に対して収入額が上回るといいますのは、その後に収納率の見直し、3月議会のときは12月ごろの予算要求ですから、その後の年明けの収納率というのを見込むときに、ある程度低目に置いておかなければ歳入欠陥を起こす可能性もありますから、補正をするときにはある程度確実な収納率で積算しております。その後4カ月か5カ月ぐらいたつわけですけれども、その後には収納強化を行いますので、その分で収納率の引き上げが行われるということで、予算に対する乖離が見られるということでもあります。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 実はきのう終わるかなと思ったのですけれども、きょうまできたので、自分で資料を見直して行って、これは決算書の中身を見ていくと、特に収入未済額のあたりですけれども、私はもうちょっと元気なころに結構年度を追ってずっと見ていたときがあったのですけれども、収入未済額はひどいとき、ひどいときというのは一番多いときだと1億8,000万円ぐらいあったときもあったのです。ところが、今回この28年度になると市税だけでも3,500万ぐらいというかなり圧縮された、会計上からするときれ

いな会計になっているなどと思うのですけれども、あと3,500万というのは本当に難しい状況が残っているのかどうなのかというところなのですけれども、そこら辺をちょっとお伺いしたいと思うのですけれども。

○委員長 北谷文夫君 税務課長。

○税務課長 為国修一君 過去から比べると大変圧縮はされてきておりまして、委員がおっしゃるとおり28年度の収入未済額は3,500万余となっております。我々税務課としては未納の解消に努めているのですけれども、中にはどうしても現年度分を優先せざるを得なくて過年度分が残っていくと。それがその後には時効欠損ですとか、そういう形で欠損していくわけなのですけれども、どうしてもこれ以上の未済額の圧縮というのは、劇的には正直言いまして不可能だと考えておりますが、収納の対策強化というのは毎年度、毎年度強めていきたいと思っております。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 続いて、地方消費税交付金のことでちょっとお伺いするのですけれども、決算書を見ていくと前年比で約5,000万ほどの減ということになっていまして、この減の要因なののですけれども、地方消費税の交付金というのは人口とか従業者数を指標に交付されるというのはちょっと調べてみたのですけれども、砂川市の場合は4,800万減するほどその部分が減ってしまったのかどうかというところをお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 政策調整課長。

○政策調整課長 井上 守君 地方消費税交付金でございますが、年度当初予算計上の段階では地方財政計画の中から地方消費税交付金を算定していくわけでございますが、前年度ベースの分から伸び率を掛けて予算計上せよというような国の指示もございまして、6.5%程度の増ということで見込んでおりましたが、中身につきましては減収となってございます。円高を理由ということで減収になってございまして、精算の後地方消費税が減になってございますので、人口が減ったとかというところの減ではなく、単純なといいますか、全国的なというか、輸入、輸出の産業の部分の円高の差益の部分で減になっているものでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 わかりました。

次は、地方交付税の関係なのですけれども、こちらが基準財政需要額が9,000万ほど減ということになっております、前年度に比較してなののですけれども。こちらのほうは、どのような原因があったのかをお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 政策調整課長。

○政策調整課長 井上 守君 基準財政需要額につきましては、各費目の分、事業調整の分が3,400万、それから密度補正の分が1億1,500万の減になってございます。ただ、公債費の分につきましては4,100万程度増になってございますので、合わせて

1億8,000万程度の基準財政需要額の減という形で押さえてございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 基準財政需要額、経常的に支出されるものの合計というふうに私は思うのですけれども、これはそんなに前年度と変わっているようには私には思えないのですけれども、国のほうのある程度のさじかげんというか、操作と言ったら言葉が悪いかな。そんなようなところが原因なものなのかどうかをお伺いしたいと思うのですけれども。

○委員長 北谷文夫君 政策調整課長。

○政策調整課長 井上 守君 こちらも委員会ではご報告してございますが、28年度の交付税につきましては国勢調査の人口が確定した初めての分でございます、人口減の分につきましては各測定単位が人口という項目が9,800万程度減になってございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 地方交付税、意外と指標や数値は計算の仕方が難しいのでしょうかけれども、財政需要額から基準財政収入額を引いて残りということになると思うのですけれども、人口の減だけで9,800万ということになると1人当たりについて言うとどのぐらいの額になるのですか。

○委員長 北谷文夫君 政策調整課長。

○政策調整課長 井上 守君 こちらは、1人当たりの分というご質問でございますけれども、人口1人当たりの分で1,354人分が国勢調査の分で減っていることにはなっているのですが、その者が70歳以上の高齢者なのか、また学齢期の者なのかというところでそれぞれ単位が違いますので、一概に数字では言えませんけれども、基準財政需要額ベースで割れば30万弱ですとかというような数字でございますけれども、それぞれの測定単位がございまして、一概に数字は出してはございません。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 これまでもよく聞いている話ですけれども、では逆に人口が1人ふえると30万ふえるのかという単純な計算ではないのかどうかお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 政策調整課長。

○政策調整課長 井上 守君 ちょっと私の説明が不足してございましたが、9,800万分の測定単位の単位金額は減っているのですが、包括算定経費とかという別な部分で補足されているというか、調整されている分がございまして、実際の人口減と言われる分については5,500万の減には一応なっているのですけれども、ですので今人口が1人ふえたからという部分についてどれぐらいの額というところは、その人のケースにもよりますので、算定しているものではございません。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 続いて、土木使用料の関係でお伺いします。

土木使用料の関係、特に市営住宅の使用料の関係になるのですけれども、市営住宅の使

用料に関して平成28年度は98.5%の収入率ということに、現年度ですけれども、なっていますよね。かつては99.6%ぐらいのときも、99.63%、平成24年のころだと思うのですけれども、相当高かったときがあったように思うのです。それ以降ちょっと調べていくとだんだん、だんだんと落ちていって、今平成28年、98.5%になっているという結果なのですが、この辺のところの要因というのはどんなことなのでしょう。

○委員長 北谷文夫君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 金丸秀樹君 収納の率のお話でございますけれども、確かに過去を見ると徐々に落ちているということがあります。確かに全体の収納額自体も人口の減少と入居者の減少、その他経済状況だとか入居者の方々の高齢化、それから入居されている方々の世帯構成、それらが影響しまして全体額に影響しているとともに、やはり経済状態が非常によくはない。その中で住宅使用料を払っていくということで、滞納も若干ふえている状況にありますので、その収納に苦慮しているというところもあり、また今までの方法とは違ひまして、分納という形でお客様のほうと誓約をするという方法を昨年度につきましては従来よりも若干ふやした経過がございまして、その結果滞線分に若干頑張ったところもございましたけれども、現年のほう、そちらのほうがちょっと先送りになってしまったというところもございまして、今回の影響額には響いてきているというところがございます。額を分析しますと、おおむねその分、いろいろな要素はありますけれども、その影響が最終的には出てきており、収納のやり方自体は従来に加えてそのようなこともやっている中で結果的にこの数字ということで、ちょっと残念ではありますけれども、こういう形になってございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 今人口減だったり、高齢者世帯がということの話もあったのですけれども、それは使用料全体としてちょっと圧縮されていくという可能性はあるにしても、収入率そのものには余り影響はないことかなとは思っています。ただ、最近市営住宅を見ていると空き家がふえてきているので、たな子さんが少なくなってしまうという中で、かなり取るのに難しい人がそのままだとすると、割算の関係でいくと収納率は下がっていくのだろうと思うのです。そんな影響というのはどうなのでしょう。

○委員長 北谷文夫君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 金丸秀樹君 入居者の絶対数が減る中で滞納の方がいて、取りにくい中で収納を上げるというのはなかなか難しくなっているのではないかとご質問だとは思っています。滞納されている方の数的には一定数、経緯を見ますと変わらない中で、額も大きいものがありますので、収納対策として方法を変えるなり、ご本人以外の関係する方にお力添えを得るような形で収納対策を進めているところです。見ていますと、ここ2年ぐらいでは生活の状態とか、経済の状態は変わらない方もおりますけれども、関係者の方とお話をしながら進めていく中では、少しずつ納めている方も悪質と言われる方の中でそうい

う方もいらっしゃるし、若干の滞納が始まって、新たな滞納者も今年度は前年度よりふえているところがありまして、そちらの方の生活状況を見ますとやはり働き手が1人しかいらっしゃらないにもかかわらず、疾病だとか、それから転職によって一定期間収納がないというようなところがありまして、そちらの方につきましては先が見えているので、ちょっとずつ相談件数もふえておりますし、地道ですけれども、そういうような形で対応させていただいているというところでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 私たちは、ただ数字だけを追って今こうやって質疑してしまうという状況があるのです。以前こんなに高かったのにどうして今こうなのという話にどうしてもなっていく質問になってしまうのですけれども、原課は社会状況も含めていろんな努力もされているというのはわかってはいるがらの質問なのですけれども、滞納繰り越しの関係でいくと確かに平成28年度は18.78で、これまでよりも頑張っただけでいっている数字は見えるのですけれども、ただ滞納繰り越しの調定額というのも若干ですけれども、これはなかなか減らずに、収入率を上げたのだけれども、滞納の額はふえていっている傾向があったりするのです。この辺というのは、なぜこうなっているのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 金丸秀樹君 調定の関係ですけれども、年間過去の経緯も含めて滞納者の方と折衝なりいたしまして、回答なり先の見込みについてお話し合いをして、それについて数字をある程度決めていくということなのですけれども、往々にしてあるのは決算の時期にやはり予定の額が入らない、払えないということで、そういう方々については若干額も1桁違ったりするケースが多いですから、その影響というのはやっぱりずばっと数字として出てきますし、額も率にも影響してくるというところはございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 最後の質問にするのですけれども、滞納繰り越しまで至ってしまっている世帯というか、戸数ですけれども、これは28年度で大体どのくらいあるものなのか。

○委員長 北谷文夫君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 金丸秀樹君 年度でいきますと十数件でございますけれども、一般公営と改良住宅、駐車場もございますけれども、延べ80とか、そのぐらいの数にはなってございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 わかりました。

では、次寄附金のことで、ふるさと納税の関係でお伺いします。ふるさと納税のことでお伺いするのですけれども、歳出のところでも少し質疑があったのですけれども、平成27年度とは余りふるさと納税の額というのは変わらなかったというふうにまずは確認をし

てよろしいかどうかお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 ふるさと納税につきましては、歳入になりますけれども、27年度と比較しまして大体2,400万ほど多くなってございます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

プラスになっています。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 そのふるさと納税の傾向なのですけれども、歳出のときも少しお話が出ていましたけれども、大ざっぱに分けるとするとどういう納税で、いわゆるこちらがお返しする物のことですが、どんな傾向であったのかをちょっとお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 件数が3,768件ございましたけれども、この中で1万円の寄附が1,844件で、約半分ほどになってございます。歳入について伸びた理由というのは、きのうも申しましたが、今まで寄附1万円、3万円、10万円等この区分を8区分にしていたのですけれども、さらにここを細分化することによってより多くの寄附を得られるのではないかということで、14区分へ拡大してございます。また、それにあわせてやはり特産品、返礼品というの、これが目的という方もいると思いますので、ここも品数もふやしまして87品目にしてございます。この中でも特にきのうも申しましたようなお米の関係で、これについては今まで5キロ、3キロ等で単品でやっていたものを継続したらどうかということで、その区分も設定して、半年間米を送るというのも人気がございますし、もう一つ、やはり砂川に来ていただくということも何とかできないかということで、アメニティマラソンという項目も設けましたし、あとそのほかにもリンゴの木のオーナーということで、これも新たに設けて、去年は秋に砂川に、これは道内の方ではあるのですけれども、収穫に来ていただいています。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 やっぱり返礼品の額としては、革製品というのは大きな比率なのでしょうか。そこをお伺いしたいのですけれども。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 高額ということになりますと、砂川市の場合は革製品になるのですけれども、こちらの場合は金額でいきますとやはり8割ぐらいはこちらのほうになります。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 特色ある革製品があるから1億5,000万ぐらいのふるさと納税があると考えていいと思うのですけれども、ただやはり先ほど、前からも言っているのです

けれども、要するに砂川に来てもらえるようなというようなことは、今回はアメニティマラソンですか、それからリングのオーナーでリング狩りに来てもらうというような新しいメニューがあったというお話だったのですけれども、こちらのほうは何人ぐらい、それで納税をされた方は何件くらいあったのですか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 アメニティマラソンにつきましては、去年、28年度途中からですので、29年度、ことしのアメニティマラソンの申し込みになるのですけれども、28年度中は1件、29年度中にもプラス2件ありまして、今年度のアメニティマラソンには3件の方が出場されております。あと、リングの木のオーナーなのですが、リングの木については制限がございまして、提供していただく事業者の方のほうからご提案したときに5件ということで申し込みをしたのですけれども、ここで5件を超えてさらにもう一件来たものですから、お話をして6件になってございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 やっぱり来てもらえるということはすごくいいことだろうと思うのです。リングの木のオーナーなんていうのは最初よりもちょっと予定が多くなったというようなところもあって、アメニティマラソンってなかなか難しいかなと正直思うのですけれども、参加料がただになるみたいなメニューなのですか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 そのとおりでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 できればやっぱり砂川にも来てもらえるようなメニューをふやしてほしいなと思うのです。特にお菓子のまちで、こっちから送れるお菓子と送れない人気のお菓子ってあると思うのです。あるいはアイスだとかソフトだとか、かなりもう今全国で有名になっている、そんなようなものもあると思うのです。これは、なかなか送り切れないというものも砂川ではたくさんあると思うのです。ラーメンしかり、ポークチャップでもいいのですけれども、やはりこっちに来てもらわないとなかなか今砂川で売り出しているものをうまく回していけないというようなこともあると思うので、何かそんなこともぜひ次に考えてほしいなと思うのです。前例としては、同じような例はほかのまちで結構あると思うので、クーポン方式にしてもいいし、食事券にしてもいいでしょうし、買い物券にしてもいいでしょうし、もう少し砂川に来てもらうためのメニューが充実してもいいのかなと思いますので、ぜひそんなことも考えていただきたいと思います。

私の質疑は終わります。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 それでは、私のほうから1件だけなのですけれども、91ページ、財産収入についてお伺いしたいと思いますが、そのうちの不動産売却収入についてお伺いした

いと思います。

ことしかなり未利用地が売れたのですけれども、その中で空知太の2件の土地なのですが、ここの利用目的とこの土地を購入するに至った決め手みたいなものが何かありましたらお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 ここは空知太になりますけれども、この場所におきましては空知太保育所の北側の用地になります。ここは土地開発公社基金の用地であったわけなのですが、ここを住宅用地として買いたいという申し込みが2件ございましたので、こちらのほうへ売却をしたということでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 なかなか立地のいいところだと思うのですけれども、購入のきっかけになった決め手みたいな、例えば値段であるのか、あるいは立地が一番よかったのか、そういった購入者の意向といいますか、そういったものは何か把握されていますでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 ここの2件なのですけれども、このうちの1件は近隣に住んでいる方でもございまして、子供等がふえて今の家が少し手狭になってきたのでというところで購入いただいております。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 現在未利用地が市のホームページでもいろいろ紹介されていますけれども、購入された方はご近所だということで、そうしますと売却しているという看板を見てそれに至ったのか。ホームページではなくて看板で判断されたということなののでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 今未利用地という中で、やはり自主財源の確保ということで売れるもの、買っていただける方がいるなら売りたいという気持ちもございますので、ホームページと、あと看板も市内に設置してPRしているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田真委員。

○武田 真委員 それでは、今回買われた方は看板を見て、それでこの土地があいているのだなということで判断されたということでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 東 正人君 そのとおりでございます。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第11号を採決します。

本案を原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり認定することに決定をいたしました。

続いて、304ページからの議案第12号 平成28年度砂川市国民健康保険特別会計決算の認定を求めることについての審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ございませんか。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 国民健康保険の関係で、総体的になってしまうのですが、今回の国保会計、平成28年度の関係なのですが、被保険者、いわゆる病気に一生懸命にならずにと言ったら変ですが、受診件数がかなり減って、それから療養給付費も落ちて、皆さん健康に留意をしながら28年を過ごしたのだらうと思うのです、数字の結果ですが、ところが、今回はマイナスの収支になってしまっているのです。このところがとても残念だなと思うのです。普通でいくと医療費がかさばるから国保会計が厳しくなるのだというのが普通の考え方ですが、ただ28年度というのはさっきも言ったとおり受診件数は減って療養給付費も下がったはずなのに赤字が出てしまったということなのです。この辺は何でこんな結果になるのかをお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 市民生活課長。

○市民生活課長 佐藤哲朗君 今年度決算でマイナスということになりまして、6,500万ほど繰り上げ充用となってございますけれども、そのうち4,700万ほどは27年度のマイナス分、そこに繰り上げ充用として充てた分が含まれておりますので、27年度としては単年度で4,700万のマイナスということでしたけれども、28年度の単年度だけを見れば4,700万を除けば1,700万ほどのマイナスの収支ということで終わっているという状況になっております。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 歳入の関係なのですが、監査審査意見をちょっと見てみると予算と決算の差が1億3,000万マイナスになっているのです。そのほとんどが国からのいろいろな交付金が減少したことなのだとということなのですが、これは予算の段階では入ってくると思っていたものが入ってこなかったというのは、何でこうなったのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 市民生活課長。

○市民生活課長 佐藤哲朗君 歳入のほうで大きく減額となりましたのが前期高齢者の交付金、こちらがマイナス精算となりまして、大きく1億3,000万ほど落ちております。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 それはわかるのだけれども、それがどうしてそんなになってしまうのだろうと。予算のときにはちゃんと入るつもりであったものが決算になったらマイナス1億3,000万といったら、これは入っていれば28年度はプラス、基金に繰り込めたかどうかはわかりませんが、単純に数字だけ見ればそういう結果になるかなと思うのですけれども、その理由が知りたいのですけれども。

○委員長 北谷文夫君 市民生活課長。

○市民生活課長 佐藤哲朗君 前期高齢者の交付金につきましては2年後の精算という仕組みになっておりますので、2年前の概算で支払われた交付金はそのときの前期高齢者の医療費あるいは加入者の人数等で概算的に交付されていた26年度が多く交付されていたということで、それが2年後の28年度になって初めて減額になるというのがわかるということで、当初予算の段階等では減額の幅あるいは精算によってふえる幅というのはちょっと見込めない状況でございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 2年前のが反映されるということだとすれば、予算を立てるときも2年前なのだから予想は逆につきやすいのかなと、素人考えだと思うのですけれども、そうではないのですか。

○委員長 北谷文夫君 市民生活課長。

○市民生活課長 佐藤哲朗君 この数字自体が砂川市だけの数字というものでもなく、全国的な平均の中から出てくる数字ですので、なかなか見込みというところまでは立てることができない状況でございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 そうですね。わかりました。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第12号を採決します。

本案を原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり認定することに決定をいたしました。

続いて、384ページから議案第13号 平成28年度砂川市下水道事業特別会計決算の認定を求めることについての審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第13号を採決します。

本案を原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり認定することに決定をいたしました。

続いて、431ページからの議案第14号 平成28年度砂川市介護保険特別会計決算の認定を求めることについての審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ありませんか。

中道博武委員。

○中道博武委員 ちょっとだけ教えていただきたいのですが、487ページ、いきいきシニアプログラム事業運動、これについて委託料というのがあるのですが、この内訳だとか、そういったことについてご説明いただければと思います。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 吉川美幸君 ただいまご質問をいただきましたいきいきシニアプログラムでございますけれども、こちらにつきましては通年型の介護予防教室として市が主催をして、原則週1回、農協さん、A i A iの2階になりますけれども、そちらのほうで開催している事業でございます、この委託料につきましては運動指導士の方の委託料ということになってございます。

○委員長 北谷文夫君 中道博武委員。

○中道博武委員 それは、その1点に対する全額がこういうふうになっているということですか。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 吉川美幸君 ご質問のありましたいきいきシニアプログラムの事業指導の委託料ということでございますので、こちらにつきましては運動指導士の方に対する委託料ということになってございます。

○委員長 北谷文夫君 中道博武委員。

○中道博武委員 わかりました。

それでは次に、介護予防事業対策者把握事業に対する委託料、これについてもちょっと説明いただきたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 吉川美幸君 こちらにつきましては、介護予防の対象者の把握というこ

とで、私どもが地域包括支援センターのほうに委託をしている事業でございまして、この内容につきましてはその事業執行に対します職員の方の person 費もしくは事務経費というところで計上させていただいている経費ということでございます。

○委員長 北谷文夫君 中道博武委員。

○中道博武委員 勉強不足で大変申しわけなかったですけども、内容についてはわかりました。これからの砂川市は65歳以上の高齢者の割合が36%以上になるということから、シニア世代の、余りいい言葉でないかもしれないけれども、老後の生活の中で大変重要な事業かなと思います。今後も重要な内容でございますので、よろしく進めていただければと思います。ありがとうございました。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第14号を採決します。

本案を原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり認定することに決定をいたしました。

10分間休憩します。

休憩 午前10時54分

再開 午前11時06分

○委員長 北谷文夫君 休憩中の委員会を再開いたします。

議事に入る前に、国保会計における答弁について一部訂正したいとの申し出がありましたので、これを許します。

市民生活課長。

○市民生活課長 佐藤哲朗君 先ほど小黒委員からの質疑に対して当初予算と決算の差の1億3,000万ということで原因等をお話しさせていただきましたけれども、若干内容の説明が違っていましたので、訂正させていただきたいと思います。

ここで1億3,000万が出ているのは、予算計上時に収支不足分を雑入のほうで1億4,000万円ほど見ていましたけれども、最終的な医療費等の減額等により収入のほうの不足がそこまで必要なくなったということで、雑入のほうの予算が落ちた1億4,000万程度の不足がここに入っております。訂正させていただきます。

○委員長 北谷文夫君 続いて、502ページからの議案第15号 平成28年度砂川市後期高齢者医療特別会計決算の認定を求めることについての審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第15号を採決します。

本案を原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり認定することに決定をいたしました。

続いて、議案第16号 平成28年度砂川市病院事業会計利益の処分及び決算の認定を求めることについての審査に入ります。

収入支出一括して質疑ありませんか。

武田圭介委員。

○武田圭介委員 それでは、病院事業に関して何点かお伺いしますけれども、本当は総括のほうでも聞けばよかったのですが、平成28年度の決算でありますので、平成28年度といえば診療報酬の改定があった年でもあります。当然いろいろと国の動向によって非常に大きな影響を受けるわけでもありますけれども、その辺の影響等というのを決算が最終的に見込みではなく確定した段階ではどのように病院として受けとめていらっしゃるのかをまず最初にお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 平成28年度の診療報酬改定の影響ということでございますが、まず平成28年の診療報酬改定の改定率につきましては診療報酬本体が0.41%のプラス、薬価、材料費がマイナスの1.33、それにプラスアルファで薬価算定ルールというのが変わってございます。その影響がマイナスの0.19、トータルで0.103%と言われております。実際に我々が平成28年度の改定をシミュレーションさせていただいております。それは、平成27年度の1年間の診療データを平成28年度以降の新しい点数に置きかえてシミュレーションということをしております。全てが置きかえられるわけではございませんが、入院分につきましては91%ほど置きかえが整っておりますし、外来につきましては97%ほど置きかえができております。その結果につきましては、入院分としてはマイナスの1億3,000万円ほど、外来分につきましては3,900万円ほどマイナスになるであろうというシミュレーション結果が出ました。それを受けて新しい28年度の改定の中では、我々にとってプラス方向に働いたのは、いわゆる総合病院における精神科医療、認知症のほうを国は力を入れると言っていましたので、そういった部分が結構プラスの要因があったと。そういった施設基準を含めて対策を講じた結果、

前年度の決算より入院は2,000万円ほど減少しておりますが、外来については7,500万円ほど増加したと。トータルでは5,500万円ほど増加したということで、マイナス改定の影響を最小限に食いとめることができたと考えております。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 これも常日ごろから言っていることでありますけれども、皆さん方が一生懸命経営努力をされても公定の価格が決まっているものですから、2年に1度の診療報酬等の改定で非常に大きな影響を受けると。それともう一つ、公立病院でありますので、赤字の不採算部門も抱えないといけないといったような中で、非常に医療職を初め、あと事務方の皆さんを初め献身的に病院経営のために努力をされていることには敬意を表したいと思います。

今総論的なお話を伺ったのですけれども、正直もう平成29年度も半ばに入って、それから29年度の予算も今執行している状況でありますから、29年度に至っては病床の利用率がいい月もあって、非常に成績がいいということではありますけれども、あくまでもこれは平成28年度決算でありますので、ちょっとそのところを細かい話になっていきますが、お伺いをしていきたいと思うのですが、その前にページでいえば決算書の14ページに当たりますけれども、14ページの貸借対照表で平成27年度決算と比べて、一番上のところなのですが、固定資産の有形固定資産、土地のところの金額が1,300万円程度上がっているのですけれども、これは例えば評価がえがあったとか、何か取得したとか、そういったようなものがあるのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 経営企画課長。

○経営企画課長 渋谷和彦君 固定資産の有形固定資産の中で土地がふえているといったご質問かと思えます。こちらは、29年度で医師住宅の建設が行われています。その事前に土地のほうは市からの会計外で取得をしておりますので、その分の増加となっております。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 恐らくはそうかなと思ったのですけれども、29年度の予特の会議録を見ると建物の話が出ていて、土地のほうは見落としていたのかなと思ひまして、わかりました。

次なのですが、中身に入って行って、18ページの収益費用明細書のところでありますけれども、いろいろとトータル的には診療報酬の改定の影響も総合的にプラスのほうで十分収益が上がったということなのでありますけれども、平成26年11月から、私が間違っていれば訂正してほしいのですけれども、地域包括ケア病床が砂川市立病院の中にもできたと思うのですが、平成28年の改定の中に地域包括ケア病床の包括範囲から手術や麻酔のところの算定がはじかれて、出来高算定が可能になったということなのでありますけれども、その辺は病床の稼働率と出来高算定のところというのは28年度決算のところはどういう

影響があったのかというのを伺いたしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 28年度改定で、今委員さんがおっしゃいましたとおり、地域包括ケア病棟において手術、麻酔については出来高で算定していいですよというように改定がなされました。これは、主に地域包括ケア病棟に入る患者さんが在宅にいる方で、軽度な急性期を提供する医療機関が今までですと手術ができないというようなことから、そういう改定がなされたわけでありまして。当院の場合は、いわゆる地域包括ケア病棟以外の一般病床のほうで、DPC病棟のほうで急性期治療を終えた患者さんが入るのがほぼ9割以上ですので、その影響というのは余りないのですが、ベッドコントロール上、まれに白内障の眼内レンズの患者さんが入る場合がありますので、そういった場合については出来高で算定できたということでありまして。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 そういふところも診療報酬の改定では当然出てくるわけであって、病院経営を考える上ではマクロ的なものからミクロ的なものまで目を本当に皿のようにして見ていかないとなかなか難しい時代でありますから、ぜひとも収入の確保につながるようなことであればいろんなことに取り組んでいただきたいのですけれども、同じページの、これも毎年の決算のときにも聞いているのですが、室料差額収益ということで差額ベッドの関係なのですけれども、この辺は差額ベッドの稼働率等を含めて27年度決算よりは上がっているのですが、どういう状況なのかというのを伺いたしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 差額ベッドの利用状況ということだと思いますが、まず27年度につきましては81.3%の利用率がありました。そのうち73.4%の方から料金を徴収して、7.9%の方は室料を免除したということでありまして、対して28年度につきましては78.3%の利用がございました。そのうち69%の方から料金を徴収いたしまして、9.2%の方は免除したと。前年より利用率につきましては3%ほど減少している状況であります。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 利用率自体は減少しているのですけれども、収益的に見るとこれが増額しているというのは、例えば部屋のグレードが高いところなのか、それとも期間が長かったのか、その辺はどういう状況ですか。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 実は28年の4月から緩和ケア病床というのを追加した関係で、そこの個室は2床あるのですけれども、そこの分、1日5,000円プラス消費税ということと、あとは3階東病棟は今小児科が入っていると。メインでやっているところがあるのですが、小児科の利用が余り少ないということで、一般の治療にも使おうと

いうことで、そこも個室がありますので、そこでトータル4床ふやしたということが原因です。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 やはり聞いてみないとわからないこともあったのですが、そういうふうには有効に活用されているということなのですね。

あと、これは昨年の決算のときもお伺いしたのですが、医療相談収益の中で健診の関係なのですが、順調にここの部分を増収しているのですが、昨年ももっともっと健診に力を入れて、いろいろとPRの働きかけをしたらどうかということを決算で伺ったときに、そうしたいのはやまやまのだけれども、やはり最終的にはマンパワーが不足しているというようなお話があったのですが、このように27年度、28年度と決算の収益の中では上がってきているので、まだまだ多分潜在的な需要があると思うのです。やはり本体である医業収益で稼ぐことは大前提ではありますけれども、特に診療報酬、来年も改定が予定されていますが、それによってはすぐに内部留保ですとか、経営努力というようなものが吹き飛んでしまうおそれもあるもので、その辺はまた続けてになるのですが、病院としてはこういうような傾向で、増収の傾向でふえていっている中で、さらなる潜在的な需要を喚起するためというようにことは決算を調製しながらどのように考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 私どもも保険診療以外の部分では健診で収益を上げたいとは昨年来から言っていることであります。その中で28年に乳がんの専門医の先生が来られて、乳がん検診というのはふえてきております。健診ではないのですが、マンモグラフィー検査も相当数ふえてきてございますので、そういった予防の部分にもこれから力を入れていきたいと思っておりますし、今水曜日だけがドクターの関係で健診できていけませんので、そこをどうにか埋めるということで、ちょっと今院内で協議をしている最中でございます。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 ぜひとも施設の有効活用と、さらに増収につながるような取り組みというのは常にやっていかないといけないことでもありますけれども、その辺はしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

これも私がもし思い違いで間違いがあれば訂正していただきたいのですが、うちの病院というのは病院ではDPCのⅢ群で、機能評価係数はⅡ、普通の病院よりも高い評価係数になっていると思うのです。これというのは、DPCを考えたときに今副病名、副傷病名というのか、両方の言い方があると思うのですが、そこをやっぱりしっかりととっていくということは非常に重要なことだと思うのですが、これはもう私が言うのではなく、皆さん方のほうが詳しいと思うのですが、その辺というのはこの決算の状況

を見ながら、通常の本来的の病気で患者さんが来られて、たまたま治療している最中に別の病気が発見されたときのしっかりとした医業収益の確保のための副傷病名とかをつけるといったような取り組みというのはどう行われているのかというのを伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 当院はDPC病院でございまして、その中でもDPCの点数そのものは全国共通の点数でありまして、そこに係数というのがかかかってきますので、それは非常に大事にしているところでありますし、今ありました副傷病名の関係につきましては、これは27年からやっております増収対策のためのZプロジェクトの中にもDPCのコーディングワーキンググループというのをつくってございまして、副傷病名の漏れがないかというのを、それは基本的に病名をつけるのはドクターなのですけれども、全ての細かいところまで全部つけられるかというとなかなかそうもいかない部分がありますので、そこら辺は医事課にいる診療情報管理士が診療のカルテを見ながら病名の漏れがないのか、副傷病名がつく、ヒットするところがないのかというのをチェックしておりますし、例えば抗生物質を使うときには院内は届け出制になっておりますので、その届け出の用紙を見ながら、そこにヒットする病名がついていないかとか、そういうドクター以外の者もチェックしながら取り組んでいるところであります。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 そういう取り組みもあって、多分患者数が多少減少したとしても1人当たりの単価が上がっていているのだらうなと思うのですが、そこで病院事業会計決算審査特別委員会附属資料の2ページなのですが、この患者数の動向を見ていると非常に28年度は27年度と比較して特徴的なことがあって、入院の患者さんで滝川市の患者さんが2,000人ぐらい減少していると。ほかはほぼ横ばいか、歌志内もちょっと落ちているのですけれども、大体前年度と同じぐらいか、ふえてはいるのですが、滝川と歌志内が落ちている。特に滝川の落ち込みが2,000人ぐらい落ちているのですけれども、これは入院ですから、軽症の患者さんは入院させる必要はないのですが、その辺というのはどうなっているのかなというようなことをちょっと伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 朝日紀博君 地域別の入院患者数を見た場合に、滝川市であれば27年と28年の差で2,307人となっております。これを診療科別に見ていきますと、滝川の場合、精神科で1,112名減少しております。次に大きなところでいくと内科で489名、それと心臓血管外科で513名、泌尿器科で478名となっておりますが、滝川市さんがなぜ砂川から減ったのかという細かな分析はできておりませんが、たしか昨年は滝川市立病院さんは結構患者さんを多く抱えていたと聞いてございますので、そちらに多少流れた部分もあるのではないかと考えております。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 数値だけ見ると落ち込みとしてはすごく目立つなと思ったのですが、ただ、今中身がわからないでちょっと聞きましたけれども、精神科の患者さんが多いというお話だったのですが、それは先ほど質疑した、例えば大きな手術が必要な患者さん等で、場合によっては副傷病名もつきそうな患者さんがもし減っているのであれば、これは病院の経営にも影響が出るのかなと思ったのですが、どうやらそういうところではなさそうなので、その辺はわかりましたけれども、やはりそうはいいながらも、これもずっとかねがね言っていることでもありますけれども、どれだけ患者さん1人当たりの単価を上げたとしても、そこにはいずれ限界が来て、患者さんの総数をふやしていかなければなかなか病院経営は難しいだろうと。ただ、ここは今病院の事業会計の話ですから、社会的な話をするわけではありませんけれども、この地域では患者さんがふえることが社会的にいいかどうかという点とまたそれは別の話にはなるとは思いますが、病院経営を考えればしっかりと患者さんの確保をやっていっていただきたいと思うのですが、そこでこれも従来から聞いているように、平成28年度以前、平成27年度でしたか、そら-ねっとの運用が開始されたわけでありましてけれども、当然いろいろと今医療と介護の連携も必要になってきますし、やはりずっと言われていることではありますけれども、紹介、逆紹介の関係をしっかりと築いていくことは患者さんの確保にもつながっていくものでありますから、その辺は決算を行うと人ですからそれぞれ毎年のように変動して動いていくわけでありまして、その辺の分析、傾向というのは28年度決算を踏まえていかにしているのかお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 山田 基君 まず、紹介、逆紹介の関係ですが、紹介患者数のほうは平成28年度は6,324、総数ですが、平成27年度が6,286で、38件ぐらいの増なので、そうそう変わってはいないと。逆紹介のほうはこちらは平成28年度が4,895で、平成27年が4,265ということですので、630件ということで、かなりふえているということでございます。これは、紹介、逆紹介というのは密接な関係がきっとあると考えておりますし、紹介患者をふやすために逆紹介の患者、うちから地域に戻してかかりつけ医をつくっていただくと、そういうことによって本来のうちの病院の急性期という病院の役割もできていく。それが地域で完結できる、そういう医療となっていくのだろうと考えていて、逆紹介がふえているということではいい傾向なのだろうと思っています。ただし、逆紹介というのはふやしていくにも相手先がいることでもありますので、紹介するクリニックさんにただ紹介すればいいだけではないでしょうし、当然患者さんにも納得をしていただかなければならないということもございまして、その辺は努力していきたいということと、やはりかかりつけ医さんをふやしていくということも一つの方法です。先ほど言っていたそら-ねっとの関係ですが、そちらもIC

Tを使って情報共有をしていこうと。紹介、逆紹介の中でうちに紹介していただいた患者さんのカルテの情報を見ていただいて、状況を把握してもらって、それをまたお返ししてやっていこうということで、そういうそら-ねっとのほうも自治体病院6つで結んでいますけれども、そこでそういうやりとりができるようになってからも、やはり紹介、お互いに滝川からうちに紹介が来るとか、うちから滝川に戻すとか、そういうのもふやしていくというようなことをやってきて、それも紹介、逆紹介の一つの要因になるのかなという分析はしています。ただ、こちらやはり課題というものはたくさんありますので、それは現在も引き続き課題として、28年度は自治体病院だけであったのですが、現在はクリニックさん、病院、診療所さんと歯医者さん、歯科までは公開していいよという話になっていますので、そういうのも今後の課題としていくのかなと考えています。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 今後は市立病院にも歯科の常勤の先生も来られるようになりますし、今ほどのお話もあったので、その辺の連携の幅というのは多分事務方のほうでもしっかり考えていらっしゃるの、広がっていくのだろうなとは思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

同じく医業外収益の中でその他医業外収益というのがあるのですが、これは額的には病院の事業会計から見ると非常に少額と言うとちょっと語弊がありますが、300万程度27年度から落ちているのですが、この辺というのは例えば病院の食堂とか売店とかテナント以外に何か、その他の医業外収益というのはどういったようなものが考えられるのか伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 その他医業外収益の減少の大きな理由ですけれども、平成28年2月にプロポーザルを行いまして、売店、食堂、床屋さんをやったのですが、そこで売店の使用料が当初破格で出たということで、価格交渉をしたのですが、なかなかもとに戻らなかったということで、大体900万ぐらいの減ということになっております。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 そうすると、それ以外のところはなかったということですね。これは予算でもお伺いしたところだったので、それ以外のところでは特に落ちがなかったという理解でよろしいですか。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 それ以外としましては、公宅貸付料で、看宿に住んでいた看護師さんが30人から今26人ということで、月平均4人減ったということで、年間で60万ほど収益として落ちたということでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 次に、支出のほうに入っていきますけれども、病院で多く職員を採用す

るときには話はよく聞くのですが、病院も組織ですから人の新陳代謝というのがあると思って、看護師さんとかドクター、ドクターがちょっと動くというのは医局人事で動くのはよくわかるのですけれども、ここに退職給付費というような形で出ているのですが、なかなかどれぐらいの方が、定年で退職する方は予測がつかますけれども、例えば突発的な事由とかで退職される方にももちろん退職金等の支払いが出てくると思うのですけれども、この辺というのは27年度と28年度とほぼ横ばい程度になっているのですけれども、大体毎年同じぐらいの、キャリアによってやっぱり退職金は変わると思うので、その辺という状況がどうなっているのかということをお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 委員さんがおっしゃられましたように、定年退職者以外の退職というのはちょっと見込めないところでありますが、退職金も勤務年数によって違うところがございます。看護師さんだけでいきますと、27年度の退職者数は26人、28年度は17人というところで、あと医療技術も28年度の退職は3人というところであります。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 別に何かを示し合わせているわけではないのでしょうけれども、大体これぐらいの金額に落ちつくようなものになるのかどうかということなのだと思いますけれども、それは年度によって答弁のあったように退職者の勤務年数ですとか職種によって変動があると思うのですけれども、ここを今27年と28年の決算しか見ていないのですけれども、そういったような流れで大体安定しているという理解でよろしいですか。決算を調製するとき大体過去何年か分ぐらいのものは皆さん方は見ると思うのですけれども、その辺をちょっと確認をしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 こちらにあります退職給付費は、退職金の負担金の部分でございまして、退職金の額ではございません。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 わかりました。そしたら、仮に退職をしたときにこの金額が出ていくというようなものですよ。実際の退職金ではないということですよ。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 この退職負担金が退手組合に積み立てられていまして、やめるときには実際は退手組合のほうから退職金が支払われるということになっております。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 わかりました。ちょっと私のほうで認識が不足していました。

次に、材料費のほうで、薬品費の関係なのだと思いますけれども、今砂川市立病院はSPDを使っているということなのですが、それで使った分だけを購入するということなのだと思いますけれども、ただそうはいいながらもやはりある程度は死蔵品が発生するのではないかと思います。

ですが、その辺というのはどうなっているのかお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 経営企画課長。

○経営企画課長 渋谷和彦君 薬品に関しましては、ミキシングをした後に医師のオーダー変更ですとか、有効期限の切れたものも多少ございまして、28年度に関しましては年間360万ほど死蔵品といえますか、廃棄になった部分がございまして。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 過去の議会のやりとりの中で、死蔵品になってしまったら、多分消費期限というか、それでいいのですか。そういったようなものが切れたものでも使い回しができないと思うのですが、過去の委員会の中では1年1カ月程度前であれば同じ薬品であっても製造の新しいものと取りかえることができるということが、たしかそういう答弁があったと思うのですけれども、そうすると死蔵品というものの扱いが消費期限が完全に切れてしまったものであれば先ほど言ったように使い回しができないのですが、大体消費期限をシステム上管理をしていると、むざむざというか、それをそのまま死蔵品として使えなくするのではなくて、ある程度ぎりぎりではあるけれども、交換をして新しいものにするというようなことはできると思うのですけれども、その辺というのはこの管理を任せている中では自動的に動いていくようなものではないのかどうかということなのですが、つまり経費をむだに使わないためにはそういったようなことをしたほうがいだろうというような話なのですけれども、その辺っていかがですか。

○委員長 北谷文夫君 経営企画課長。

○経営企画課長 渋谷和彦君 平成28年度の消費期限の切れたものというのが年間80万ほどございまして。ただ、これは過去の委員会の中でもご答弁申し上げていますが、有効期限の残っているものでほかの病院で使えるようなもの、こういったものに関してはメーカーのほうでも引き取りをしてくれるのですが、うちのようながんの拠点病院となりますと、近隣の病院ではなかなか使わないといった医薬品もございまして、それに関してはメーカーのほうでは引き取りをしてくれないといったものもございまして。そういったものが年間大体80万ぐらいあったといったことになってございまして。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 どうしても出てくるロスなのかなとは思っているのですけれども、それでも80万という金額は病院全体の会計で見れば小さな額かもしれませんが、少しでも経営努力ということを考えれば、もちろん皆さん方は重々わかっていると思います、何度も言っている話ですから。ただ、やっぱりそこはできるだけそういったようなものを減らしていくという努力は、管理している業者の皆さんとも含めて随時情報交換をしていただきたいと思います。

それから、28年度にかかわって、光熱水費が病院本体と、それから附属看護専門学校両方で上がっているのですけれども、これはどちらも同じ原因かどうかというのはちよ

とわからないのですが、特別何か燃料費が高騰したというようなイメージもこの28年度はなかったのですけれども、その辺の状況というのはどうなっているのか。特に病院本体では200万ぐらい上がっていますので、その辺をお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 管理課技術長。

○管理課技術長 大内文雄君 光熱水費のことですが、光熱水費の科目は電気料、水道料、下水道料から成っており、前年度と比較しますと電気料金で260万6,898円の増、水道料金で1万9,944円増、下水道料金で70万870円増、合計で278万7,712円の増になってございます。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 それで、上がっているのですけれども、その要因というか、そこはどういったようなものなのかという詳細をもう少しお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 管理課技術長。

○管理課技術長 大内文雄君 光熱水費について前年度と比較して増加要因になっています電気料についてご説明しますと、使用量で率にして0.7%の増となっています。要因でございますが、前年度と比べ降雪量が少なかったことにより融雪電力が減少しましたが、夏暑く、冬寒かったことにより冷房等に使用する電力が増加したことによります。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 病院ですからやっぱり患者さんがいらっしゃるの、温度管理って非常に重要だと思うのですけれども、ちょっと夏が猛暑の時期だとするとそれだけでも経費がこれだけ上がるのだなということで、この辺ってついつい見落としがちなのですが、状況はわかりました。電気ばかりは自家発電をずっとやるわけにもいかないの、どうしようもないと思いますけれども、ただやっぱり少しでも経費が節約できるようなものはそれもしっかり考えていっていただきたいと思います。

それから、21ページの院内保育所の関係なのですが、これは27年度から28年度にかけて委託料が200万近く上がっているのですけれども、28年度わかればよろしいのですが、この委託契約の金額と今実際にどうか、28年度ですから28年度の保育所を利用されている定員等の1人当たりの単価というものがわかればそれをちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 平成27年度は23人以内という契約をしまして、28年度は30人以内ということで契約をしております。30人以内で月で185万円ですので、1人当たり月額6万1,000円の委託料ということになります。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 これって実は私も病院経営の関係のコンサルの本をいろいろと見るのですけれども、最近院内保育所を設置している公立病院、民間病院があって、ここに1人当

たりの委託料がかなり高額になっているというのはある意味非効率ではないかと。場合によっては補助金等で代用できるのではないかというような物の見方をしているようなコンサルの本も結構いろいろあって、近隣でも院内保育所を持っている自治体病院等々があると思いますし、市内にも保育所があるのですけれども、1人当たりの単価としてこの額というのは病院としては今当然これでやっていますから妥当な額だと思っているのですけれども、その辺というのは近隣と比較して分析されているとか、そういったようなものってありますか。

○委員長 北谷文夫君 管理課長。

○管理課長 山川和弘君 今現在のところその分析は行っておりません。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 働いている人がしっかりと安心して働ける環境を提供するというのは、人材に残ってもらうために非常に大切なことであるとは思いますが、一方でやっぱりコスト意識も持たないといけないと思いますので、その辺は私は今決算でこういうような質疑もさせていただきましたけれども、可能であればちょっとそういったようなことも調べるようなこともしていただきたいと思います。

それから、もう一つ最後にお伺いしたいのが、ちょっと戻って3ページになるのですが、こちらのほうにももう書いてあるのですけれども、今消費税の関係、本則課税をしているということなのですが、過去の市立病院も簡易課税を行っていた時期があると。当然ふだん皆さん方というか、市のほうは税金を徴収する立場ですから、税金をきちんと適正に納めるということが大事なことでありますけれども、消費税に関しては間接税なので、本則課税や簡易課税をしたときに、場合によっては有利になることがあり得るのですが、会計の規則はやっぱりころころと変わるもので、過去の2億円以下の医業外収益に関しては簡易課税でもできたのですけれども、今たしか5,000万以下になっているのかなと。そうなったら簡易課税というのは難しいのかなと思うのですけれども、その辺の状況がどうなっているのかということなのです。ここに本則課税と書いてあるから、今後簡易課税にこれが適用できる見込みがないのかどうかということなのですけれども、少しでも砂川市立病院の収益を確保するというのであれば、そういったようなこともやっぱり考えるべきかなと思うのですけれども、その辺はいかがですか。

○委員長 北谷文夫君 経営企画課長。

○経営企画課長 渋谷和彦君 消費税の関係でございますけれども、本来であれば消費税というのはサービスを受けた最終消費者が税を負担するといったことになっていきますが、病院の場合は社会保険診療といったことで非課税の取引といったことになっておりますので、どうしても病院のほうには損税といえますか、そういったものが発生することになっておりまして、大変経営にも重いものとなっております。ただ、この税制に関しましては国のほうにも各団体で要望も出しておりまして、今後こういったものの改正がされることに注

視をしているところでございます。ただ、病院のほうとしましても単に税金がこのように損税となっているということは非常に危惧しているところでありますので、今後の国のそういった政策にも目を向けながら、病院が損をしないような課税の計算方式、そういったものにも目を向けていきたいとは考えてございます。

○委員長 北谷文夫君 武田圭介委員。

○武田圭介委員 今回の答弁はすごくいい答弁だと思うのですが、過去の砂川市立病院で簡易課税をやっていて、決算でそれが議論されたこともあると思うのです。それが今決算書を見るともう本則課税に変わっているわけですから、私がさっき聞いたのは会計上両方が適用できる場合はどちらか、そちらの裁量ですけれども、会計規則が変わってしまえばもう本則課税一本になってしまっているのかなと思うのですが、ただその余地があるのであれば少しでもそういった有利な税制を使ったほうがいいと。決算書をつくるわけですから、皆さん方はずっと過去の決算から踏まえていると思うのですが、その辺がわかればちょっとお伺いをしたいと思いますけれども。

○委員長 北谷文夫君 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時47分

再開 午前11時48分

○委員長 北谷文夫君 休憩中の委員会を再開いたします。

経営企画課長。

○経営企画課長 渋谷和彦君 課税売り上げ割合といいますか、課税ですよ。簡易課税に関しては税法が改正になっておりまして、課税売上額が5,000万以上の場合には、これは本則課税になるということになっておりますので、それは変わらないで今後もそのまま引き続き行っていくことになります。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第16号を採決します。

本案を原案のとおり認定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり認定することに決定いたしました。

◎散会宣告

○委員長 北谷文夫君 以上で本委員会に付託されました議案第11号から第16号ま

での各会計決算の認定についての審査を終了いたしました。

これで決算審査特別委員会を散会いたします。

散会 午前11時49分

委 員 長